

🚗 ～ 1 9 6 2 ～ 🎹

グリーンブック

GREEN BOOK

映画で考える 「差別と旅、友情」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 「安全な宿のガイドブック」が必要な社会

題名の「グリーンブック」とは、黒人の旅行者が**安全に泊まれる宿や食事のできる店**をまとめたガイドブックです。そんな本が必要だったほど、当時のアメリカ南部には差別がありました。

🚗 「知る」ことで、偏見は変わる。

🔑 礼儀正しい顔をした差別

天才ピアニストのシャーリーは、コンサートでは白人の観客から拍手を浴びるのに、同じ建物のレストランでは食事を断られます。差別は、法律や「昔からそうだから」という習慣にも支えられていました。

※この映画には、事実とちがう描き方があるという批判もあります（下の「映画と事実」を読もう）。

2 偏見が変わる4つのステップ

■ ① 偏見を持っていた

運転手のトニーは、はじめ黒人への偏見を持っていた。

■ ② いっしょに過ごす

旅の中で、シャーリーの才能や孤独を知っていく。

■ ③ 相手の立場に立つ

シャーリーが受ける差別に、トニー自身が怒るようになる。

■ ④ おたがいに学ぶ

シャーリーも、気持ちを表すことを学んでいく。

3 映画『グリーンブック』とは

あらすじ（実話がもと）

1962年、黒人ピアニストのシャーリーは、人種差別がきびしいアメリカ南部へ演奏ツアーに出かけます。運転手として雇われたのは、口が悪く偏見も持っていたイタリア系のトニー。性格も育ちもまったくちがう二人は、ぶつかり合いながら旅を続けます。

映画と事実

アカデミー賞作品賞を受賞しましたが、シャーリーの遺族は描き方が事実とちがうと抗議しました。また、「白人が黒人を助ける物語」になっているという批判もあります。**だれの視点で語られた物語か**を考えることが大切です。

見るときの心がまえ

差別的な言葉や、つらい場面が出てきます。**差別を支えていた「しくみ」**に注目しながら見ましょう。

4 差別のしくみを考えるワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① 差別を支えていた「しくみ」には、どんなものがあった？

② トニーの偏見は、何によって変わっていった？

③ 自分の中の思い込みが変わった経験はある？

④ 映画への批判について、自分はどう考える？

5 ふりかえり

差別は、個人の気持ちだけでなく _____ にも支えられていたと分かりました。これから、自分とちがう人と出会ったときは、 _____ を大切にしたいです。

 『知る』ことで、偏見は変わる。」

先生・保護者へ：『グリーンブック』は日本で映倫Gですが、人種差別的な言葉や、警察に不当に扱われる場面、暴力をふるわれる場面があります。本資料は中学生以上を想定しています。差別的な言葉を板書・音読しないよう配慮し、作品への批判もあわせて紹介してください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。